四三九四番

大君の　命恐み　弓のみた　さ寝か渡らむ　長けこの夜を

独り竜田山の桜花を惜しむ歌一首

四三九五番

竜田山　見つつ越え来し　桜花　散りか過ぎなむ　我が帰るとに

独り江水に浮かび漂ふ糞を見、貝玉の寄らぬを怨恨みて作る歌一首

四三九六番

堀江より　朝潮満ちに　寄るこつみ　貝にありせば　つとにせましを

館の門に在りて江南の美しき女を見て作る歌一首

四三九七番

見渡せば　向つ峰の上の　花にほひ　照りて立てるは　愛しき誰が妻